

こんな**火災**が発生しています



車両火災

意外に多いクルマの火災 快適な走行のための整備は火災を防ぎます



CASE 1

走行中にエンジンが破損しエンジンオイルが漏れ出火

■乗用車を走行中、エンジンルームから異音と白煙が発生し、路肩に停止したところボンネットから炎が噴き出したもの。

エンジンオイルを長期交換しなかったことにより、オイルが「劣化」「不足」し、エンジン内部の動力を伝えるロッドが折れ、エンジン本体を突き破り、漏れたオイルが高温の排気管に触れ出火したものです。

オイルメンテナンスの違いによる同型エンジンでの比較



10年経過 21万km 走行



3年経過 5万km 走行

劣化したエンジンオイルにスラッジ（金属くず）が交じりドロドロに



火災のあったエンジンボックスのオイル（受け皿）

エンジンから取り出したコンロッド



正常

熱で変形・破損

このような火災を防ぐため、オイルメンテナンスは、メーカーが推奨する期間・走行距離で**定期的**に実施してください。

オイルも血液と同じ
ドロドロはいけません

CAUTION

CASE 2

ブレーキの引きずり火災

■高速道路でトレーラーのブレーキが効いたままの状態になり、干渉部分の摩擦熱で発火、車輪付近から車体に燃え移ったもの。

このような現象を「ブレーキ引きずり」といい、特に大型車で多く発生しています。

原因はさまざまですが、「車軸のベアリング破損」「外気温の低下による凍結」「ブレーキの調整不良」などが挙げられます。



国土交通省でも実験映像を公開し注意喚起しています



国交省ブレーキ引きずり

「ゴー」といった異音や、アクセルの反応が悪くなるなどの異変を感じたら、すぐに走行を止めて安全な位置に停車しましょう。

CASE 3

投げ捨てたたばこで出火

■走行中の窓からたばこを投げ捨てたつもりが、後部座席の窓から車内に入り込み、フロアマットなどを焼損したもの。



焼け込んだフロアマット

ほかにも、投げ捨てたたばこがエンジンのインテークダクトに吸い込まれる形で浸入し、エアクリナーに着火する例も散見されています。

たばこの火を甘くみてはいけません
火災予防上からも
投げ捨ては許されない行為です